

## 基礎ずれによる後打ち基礎の強度不足

年度	2005年完成(2005年調査)
場所	千葉県船橋市
構造	木造在来軸組工法
階数	3階
延べ面積	226 m <sup>2</sup>
用途	併用住宅(診療所)

### 瑕疵の特徴

1. 基礎の位置ずれを生じた。(長さ900mm)
2. 位置ずれ基礎に抱き合わせて後打ち施工した基礎のコンクリート圧縮強度が不足していた。
3. 後打ち基礎に指示された鉄筋が入っていないかった。
4. 後打ち基礎には、アンカーボルトがなかった。



### 解説

設計図では基礎のコンクリート圧縮強度は  $18\text{N}/\text{mm}^2$  となっているが、シュミットハンマー試験によると、後打ち基礎のコンクリート圧縮強度推定値は  $8.92\text{ N}/\text{mm}^2$  である(ちなみに当初基礎は  $20.29\text{ mm}^2$ )。建設会社のシュミットハンマー試験結果でも後打ち基礎のコンクリート圧縮強度推定値は設計図を下回っており、建設会社もコンクリート圧縮強度不足を認めている。設計図書および施行令第74条(鉄筋コンクリート造のコンクリート四週圧縮強度は  $12\text{ N}/\text{mm}^2$  以上)違反である。

RCレーダによる鉄筋探査の結果、後打ち基礎に鉄筋が入っていないことが判明。施行令第38条3項および平成12年建設省告示第1347号(第1第4項一号、同第3項五号イロ)違反。後打ち基礎と土台がアンカーボルトで緊結されておらず、施行令第42条2項に違反。